

在ボストン日本国総領事館主催
ニューイングランド大学生
第一回日本語コンテスト



The First Annual
Japanese Language Contest for
New England College Students

Organized by
The Consulate General of Japan in Boston

2011.3.5

今年度は、第一回ニューイングランド大学生日本語コンテストを実施できる運びとなり光栄です。当コンテストは、従来の当館主催日本語エッセイコンテストをエッセイ部門とスピーチ部門の二部門のコンテストに発展させたものです。ニューイングランド地域で日本語を学習する大学生を対象とし、日頃の学習成果の発表の場を提供するとともに、これら日本語学習者の皆様に、日本についてより一層知って頂くことを目的としています。

今回は、ニューイングランド地域にある大学からエッセイ部門は十三作品、スピーチ部門には十二作品もの参加を得ました。エッセイ部門では、「日米のためにできること」をテーマにしたところ、X-Japan から東洋医学、米国での日本語教育に至るまで、自らの経験等に基づいた様々な視点から、日米のためにできることが述べられた甲乙つけがたい作品が集まりました。スピーチ部門では、自分の生きがい、日本での自転車、平和のためにできることなど、様々な内容の原稿が集まり、こちらも原稿を見た限りでは甲乙つけがたく、スピーチが楽しみでなりません。

この中から選ばれたエッセイ部門入賞作品を表彰するとともに、本コンテストについて日本語教育関係者や一般の方々にも知って頂くために本小冊子を作成しました。この小冊子が日本語学習者の刺激となり、次回日本語コンテストにより多くの参加者が得られることを期待したいと思います。

最後になりましたが、ご指導くださった先生方、審査員の方々、賞品をご提供下さいました企業・団体の方々のご協力に厚く御礼申し上げます。

平成二十三年三月

在ボストン日本国総領事

引原 毅

第1回日本語コンテストプログラム

平成23年3月5日(土)

1. 開会の辞

2. 挨拶 在ボストン日本国総領事館総領事 引原 毅

3. 審査員紹介

4. スピーチ 中級の部

- | | | |
|---|---|---------------------------|
| 1 | Julie Shih
<i>Brandeis University</i> | たいわんへの旅行 |
| 2 | Marci Park
<i>Boston College</i> | 自分が生きがいを感じることに |
| 3 | Shaye Ricca
<i>Middlesex Community College</i> | 日米のためにできること |
| 4 | Tianyue Zhou
<i>Williams College</i> | 翼 |
| 5 | Kimberly Liau
<i>Bates College</i> | 日米についてできること：日本とアメリカの関係 |
| 6 | Justin Samuel Pizzo
<i>Trinity College</i> | 「空と天国の象徴：西洋にも東洋にも平和のシンボル」 |

5. スピーチ 上級の部

- | | | |
|---|---|----------------|
| 1 | Peter Graham
<i>Colby College</i> | 私の平和への貢献の仕方 |
| 2 | Jennifer Shin
<i>Boston College</i> | 自転車天国、日本 |
| 3 | Linh Nguyen
<i>Wellesley College</i> | 日本の観光産業がかかえる問題 |
| 4 | Qinyuan Lei
<i>Brandeis University</i> | 待つということ |
| 5 | Sakhon Chang
<i>Boston University</i> | ふかふかのうさぎ |
| 6 | Alexander Michaelson
<i>Tufts University</i> | ラジオで正直な音楽 |

6. エッセイ部門入賞者エッセイ朗読及び入賞者への賞状・副賞授与

7. スピーチ部門審査結果発表

在ボストン日本国総領事館首席領事 中臣 久

8. 入賞者への賞状・副賞授与 総領事 引原 毅

9. 審査批評 昭和ボストン 井熊 康之

10. レセプション

審査員 エッセイ部門

墨 とも江

講談社アメリカ プロジェクト・マネジャー

森田喜代子

タフツ大学日本学科日本語講師

渡邊眞紀

国際交流基金ロサンゼルス日本文化センター専任講師

青木 隆

在ボストン日本国総領事館広報文化担当領事

審査員 スピーチ部門

井熊 康之

昭和ボストン日本語プログラム担当

グラハム 智子

ノーブル・アンド・グリーノー・スクール日本語教師

作田 貴志

講談社アメリカ上席副社長

セイヤー 桂子

ボストン日本協会理事

中臣 久

在ボストン日本国総領事館首席領事

出場者の大学の日本語先生（自校学生以外を審査）

ご協力頂いた企業・団体

講談社アメリカ

香老舗 松栄堂

ボストン・レッドソックス

独立行政法人 国際交流基金（ジャパンファウンデーション）

（全五十音順）

エッセイ部門入賞者

Award Winners

中級レベル Lower Intermediate Division

一位 1st Place

Ying Li Boston University

二位 2nd Place

Hein Aug Brandeis University

三位 3rd Place

Shi Su Simmons College

中上級レベル Upper Intermediate Division

一位 1st Place

Guannan Lu Williams College

二位 2nd Place

Geon Kang Tufts University

三位 3rd Place

Shaan Nizami University of Connecticut

中級レベル 一位

日米のためにできること―中日のためにできること

インリ

このエッセイの課題は「日米のためにできること」ですが、私は中国人なので、まず中日のために何ができるかと考えました。中日のためにできることを考え、実践すれば、ひいては日米のため、世界のためになると信じるから、あえて、このエッセイを中日のためにできること、として書きたいと思います。

古代以来、中国は日本に多大な影響を与えました。日本も、中国から知識や技術を学ぼうとしてきました。たとえば、西暦600年に日本の遣使が中国を訪れました。だから、現代の日本の文化にさえ、中国の影響がまだ多く見られます。しかし、近代以降の日中関係は難しくなっていました。残念なことに、現在、中国のたくさんの若い人たちは日本を盲目的に憎んでいます。彼らは中国文化が日本文化を誕生させたと

思い込んでいるので、日本の文化や歴史に対しても興味がありません。

こういった無知は憎しみの本源だと思います。だから、私自身は日本を理解するために日本語を勉強するようにしました。また、日本人の友達と話せば話すほど、日本人の考え方が理解できるようになってきました。そうして、両国の中にたくさん誤解が存在しているのに気がつきました。私は日本人の友達に中国人の見地を説明してみました。中国人だけでなく、日本人も中国を理解する必要があるからです。日本語を勉強している中国人の私ができることはそうやって、誤解を少しでも減らしていくことです。国と国の間にある憎しみは政治家にとっては武器にもなり得ますが、平和を愛する大衆にはそんな憎しみなどは必要です。中国人と日本人がいつか偏見と憎しみを捨てて、平和に暮らすことを私は期待しています。それが、ひいては日米のためにも、世界の平和のためにもつながると思うからです。

中級レベル 二位

異なる文化の中で

ヘイン アウン

アメリカ人はとても変だと思った。と言うのは 私はビルマから来た留学生なので、初めて二年前にこの国に着いた時は、アメリカの文化がよく分からなかったからだ。アメリカの文化とビルマの文化がとても違うからだ。その違う文化の中で困ったことをしてしまった。ビルマでは「いいえ」という言葉を使うと、無礼なことを言う人になってしまう。あまり丁寧な答え方ではないからだ。

去年、アメリカ人の友人から卒業式に招待された。行かないと思ったけれど、「その日行けるかな」と言った。ビルマ人ならそう言えば、直ぐ分かる。招待を断っているのだ。ところがアメリカ人はそうは思わなくて、卒業式に出ると思ってしまったのだ。本当に困ってしまった。アメリカ人には、はつきり、「いいえ、その日は大事な用があるので、すみません。」と言った方がいいのが分かるようになった。これは留学して違う文化を経験して学んだのだ。毎日友達や他の人から新しい言葉やマナーや考えなどを聞いたり、

教えてもらっている。初め変だと思った文化が面白くなってきた。

自分の国を出て違う文化の中で生活したり、留学したりするのは大切なことだと思う。誰もがカルチャーショックが避けられないで、直面することになる。アメリカ人が日本に行って勉強するなら日本の文化のすばらしさが分かる。それだけじゃなく、アメリカに戻れば世界の色々な国から来た人達とも分かり合うことが出来る。日本の若者も同じで、アメリカに留学してみたい。

外国に住んで一年くらいの間に経験することが多くなつて、そうして積んだ経験から色々な見方や考え方があることが分かる。特に私達のような、高校生や大学生は成熟した考えや見方を持つためには外国で勉強するのはとてもいいことだと思う。これは、日米のためだけではなく、世界全体のためになると思う。私達が色々な文化を経験して、その人達とよく理解し合えたらもっといい世界になるだろうと思う。

中級レベル 三位

日米のためにできること

蘇 適

国際関係の発展は相互理解から始まります。米国の文化にも日本の文化にもたくさん優れたところがあります。お互いに理解しなければ、お互いに学ぶことができません。

日本は西洋の優れた文化をたくさん吸収しています。特にアメリカの文化からです。しかし、自国の文化を宣伝するのはまだ不十分だと思います。今アメリカの子供たちは日本の文化を漫画とアニメしか思っていない。ボストンの美術館には日本の芸術を素晴らしく展示していますし、又アメリカの大学には日本文化の授業もあるのに、まだまだ見学に行ったり、授業をとったりする人が少ないようです。

お互いの理解を促進するために、最も有効的な方法は自国の文化を感じらせる事です。私の友人がアメリカ人で、高三のときに学校の楽団と一緒に中国に行って演奏しました。彼女はそれから中国の文化が好き

になったと私に言いました。日米の文化交流にもこの方法が使えるでしょう。同じく、スポーツでもいろいろな交流ができると思います。例えば、野球などのスポーツは日米両国でも人気があるので、もっと交流試合をした方がいいと思います。

大学生はすぐに社会に入って自分の力を貢献する人たちです。大学の教育の変革は何年後には効果を上げられます。いま日本はたくさん日本の文化に関する課程を提供しています。外国の学生は日本の言葉と文化を習う機会も多くなっています。私たちは学生として、今日日本語を勉強していますが、日本の文化にとっても興味を持っています。例えば私の同級生の中で何人かは英日翻訳者になりたい、何人かは日本で英語を教えたい、また何人かはアメリカで日本語を教えたと言っています。もちろんどんな仕事でも、真剣に取り組めば日米の交流に貢献できると思いますが、言葉は異文化理解のかけ橋です。言葉を知っている人は早く日米の交流に貢献できます。

中上級レベル 一位

日米のためにできること

ルー グアンナン

「日米のためにできること」といえば、外交上、経済上など、数えられないほどあるだろう。だが、今の私たちは見聞豊富な外交官ではないし、知識豊富な経済学者でもない。私たち学生にとっては、留学の経験を通して異文化の言語や風習を学びながら、身をもって文化交流をはかるに勝る行動はないだろう。

ところが、日本への米国人留学生が急増しつつある一方、日本から米国への留学生は1997年の4万7千人をピークに減り続け、2010年は2万5千人にまで落ち込んでいる。経済不況にあつて、アメリカに留学しても就職活動にプラスにはならず、かえつて企業の内定を取りにくくなる恐れが最大の原因とされている。しかし、留学の本来の目的は就活のための単なる手段ではなく、人生の見聞を広めることであり、それが結果的に就職にも役立つのではないだろうか。

勿論、教科書でもクラスでも、異文化圏のこと、そして日米文化の違いは学べる。しかし、現地へ行ってみたいことには実体験はできない。又、留学とは、現地で異文化をそのまま受け入れるだけではない。自ら異文化と正面からぶつかり合つてこそ、自国、自民族の文化もより深く理解し、人間として成長できるのである。

日本での留学以来、ある議論が私の脳裏を離れない。それは、原爆投下の是非を巡る討論であつた。日本人の友人が「原爆投下は人間にあるまじき行為であり、歴史上最大の惨劇だった」と批判すると、米国人の友人は、「世界の無数の生命を救うためには不可欠な措置だった」と反論した。双方とも、全く立場の違う見解を初めて聞き、驚愕し、長い間沈黙が続いた。

相手を知ることが、自分自身の世界の狭さを知ることでもある。互いを知れば歩み寄ることも可能になる。異なる環境や価値観で生きている人々の存在を知り、母国を外から客観的に眺めることが、いま私達が日米のためにできる最善のことではなからうか。

中上級レベル 二位

話しましょう

カンゴン

私は中学生の時、好きだった女の子がいました。とても好きだったのに私は恥ずかしくて告白どころか、話もちやんと出来ませんでした。結局そのまま私の中学校時代は終わり、彼女には二度と会えませんでした。悲しくも愛を逃してしまった私でしたが、そのお陰で私は大切な教訓を学びました。それは話さなければ何も始まらないという悟りでした。

私が中学生の時の片思いで学んだ教訓は日米の場合にも丁度合うと思います。まず、日本とアメリカはお互いに十分に魅力を感じています。アメリカは世界第1位の強大国としての影響力があり、日本は強い技術力と文化力があるからです。しかし、魅力がいくらあっても話しをしなかったら中学生の私と彼女のように赤の他人になるだけです。つまり、日米のために出来ることの中で何より大切なことは話しができるようにすることです。

では、そのために何をするのが良いのでしょうか。私は言語をプロモートした方がいいと思います。なぜかという、元々言葉が通じていないと話が出来ないからです。日本語が出来るアメリカ人と英語が出来る日本人が多くなるほど、両国の政府や経済や文化に接触する人も多くなって多方面で日米の利益のために働く人も多くなるはずです。それだけでなく、言語には国の考え方が込められてお互いの言語を学んだらお互いをもっとよく理解できるわけです。実際に私も日本語を習いながら日本語にある丁寧さや文末の省略を通じて他の人を尊敬したり大切にしたりする日本の意識について学びました。

最近アメリカでは日本語の認知度が意外と低そうです。その例として、私が通った高校にはもう死んだ言語と言われるラテン語の授業はあっても日本語の授業はありませんでした。言語は人と人、そして国と国を連結する橋だから、最近減っている日本語の認知度を高めることが日米の明るい未来を一緒に作って行くための一番いい方法だと言えるのではないのでしょうか。

中上級レベル 二位

ニザミ ショーン

僕は医者になりたいので、大学で生物学を専攻しています。いろいろなクラスを取っていて思ったことは、医学は何でも小さく分解してしまうということです。この考え方だと、症状が同じだったら、治療法もみんな同じだということになります。患者がだれかということには関係がありません。

僕はこの考え方があまり好きではありません。ミクロのレベルで人間の体を支配して、治療のことばかり考えて、治療される人間のことは考えないやり方がいやで、一年前に医学部の願書を出す時にも、悩んでしまいました。医者にはなりたいたのですが、こういう考え方が好きにはなれなかったのです。

人間は一人一人違うのだから、治療の方法がみんな同じ、というのはちよつと乱暴だと思うのです。そんなことを考えていた時、日本語の教科書に漢方という言葉が出ていました。漢方は、古い日本の医学のこと

だそうです。元々は中国から来た医学のことで、アメリカの医学とはかなり違う考え方で人間を見るようなのです。これだ、と思いました。もしあの時漢方を見つけなかったら、僕は医学部への願書を出さなかったかもしれません。漢方のことを教えてくれた日本のために、僕も何かできることがあればやりたいと思います。

僕が日本のためにできること。それは漢方の勉強をして、漢方の考え方をアメリカに紹介することだと思っています。そうすれば漢方の存在を保護することができるとし、日本が西洋医学に貢献する方法の一つになると思います。今のアメリカの医学では治療方法のことがばかりに焦点が当てられています。漢方では患者を全体でまず見て、一つだけの問題を治すのではなく、いくつかの問題を同時に取り除こうとします。

日本の古い医学を勉強して、そのいい所をアメリカの医学に取り入れること。医学を通じて日本の伝統を世界に紹介することができたら嬉しいと思います。

在ボストン日本国総領事館主催

第二回日本語コンテストのお知らせ

次回日本語コンテストは、今年度同様に、スピーチ部門、エッセイ部門に分けて行う予定です。詳しくは追って在ボストン日本国総領事館ホームページ等でご案内いたします。

<http://www.boston.us.emb-japan.go.jp/ja/index.htm>

皆様のご参加をお待ちしております。

日にち 二〇一二年三月ごろ

場所 グレーターボストン地域

部門 エッセイコンテスト

中級・上級

スピーチコンテスト

中級・上級

対象 ニューイングランドの大学に在籍している大学生（大学院生も含む）

お問い合わせ先

在ボストン日本国総領事館 大津賀

infocul@cgjpos.org